

Society 5.0 推進枠（仮称）について（案）

産業利用（15%程度）のうち、5%程度を Society5.0 推進枠（仮称）とし、以下の基本的な方針に沿って検討を行う。

（目的）

「富岳」は、総合科学技術・イノベーション会議における中間評価（平成 30 年 11 月）等により、Society5.0 の実現に貢献することが求められている。

社会的に重要な課題を解決し、Society5.0 の実現に資する成果を、産学官が一体となり、富岳を用いて早期に創出することを本枠の目的とする。Society5.0 時代に HPC に期待される新たな役割も念頭に、Society5.0 を担う潜在的なユーザーへの利用拡大を図る取組を実施する。社会実装までを見据えることとし、産業界の参画を大前提とする。当面は、実験的・試行的な取組として、政策対応枠に近い枠組みで運用する。

（実施のスキーム）

- ・ 計算資源は 5%程度を想定。（産業利用枠 15%程度の内数）
- ・ 産学官が一体となり、研究課題案を検討する。（関係府省や産業界からの提案を受け、有識者会議を設置して検討を行う。）
- ・ 文部科学省が（あるいは関係府省、産業界も連名で）HPCI 計画推進委員会に提案し、了承されれば実施。
- ・ 計算資源の利用料は研究課題ごとに検討する。
- ・ この取組に R-CCS は積極的に協力する。

（対象とする研究課題）

- 社会的に重要な課題を解決し、Society5.0 の実現に資する成果を、富岳を用いて創出することを目的とする。社会実装までを見据え、産業界の参画を大前提とする。
- 「富岳」の機能・性能を有効に活用する計算機利用である。この際 Society5.0 への貢献には「ソリューションの提供」と「富岳のテクノロジーの普及」の両者の要素があることを踏まえ、Society5.0 ならではの計算機の利用方法（シミュレーションと AI の両方の手法を活用、リアルタイムデータの活用等）を重視する。

- 論文公開などを待たず、成果は随時公開するなど、富岳の価値を高める取組に最大限協力すること。

【要検討事項】

- ・対象課題の明確化
- ・知財の扱い